

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症であっても住み慣れた地域で生活することの有意義さを理解し、また、地域の方々にも理解していただき、信頼され、敬愛されるよう「信頼・敬愛」を理念に掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一回の全体会議のときに理念についてふれ、理念の共有意識の向上に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議時、ご家族・民生委員・町内会長・地域包括支援センターへ理念に基づいた活動内容を報告し、理解と協力をお願いしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃から近隣住民の方々とは挨拶を交わし、情報交換を行っている。また、近隣での事故や災害時には一時的に避難してもらえる施設として場所の提供などを行っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアを迎え交流を図ったり、町内会の廃品回収などにも参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣中学校の職場体験学習に賛同し、中学生の受け入れを行っている。また、随時介護や福祉についての相談などを受け付けている。		平成21年11月に「職場体験学習」として近隣の中学校の生徒を受け入れ予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の内容を伝え、評価項目を全員で評価した。また、前回の評価を踏まえ、改善内容を職員全員で検討し、改善に取り組んだ。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期で運営推進会議を開催し、活動実施内容については写真を盛り込んだ資料を作成して配布している。また、ご意見・ご要望に関しては、検討し改善を行い、サービス向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは積極的に連絡を取り、今後の方向性や取り組み事項などを協議している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、実際に活用し、関係者等と密に連携をとって支援を行っている。しかし、権利擁護に関する勉強会などを計画し、今後は取り組んでいきたい。		各団体等が行っている研修や学習会などへの参加や施設内研修を計画し、取り組んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連の時事などを全体会議などで報告し、虐待防止の啓発と意識向上を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、契約書・重要事項説明書の説明を十分に行い、署名をいただいている。また、不明な点や質問事項にも理解・納得いただけるよう十分にお答えしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各利用者に担当者を設け、ご意見・ご要望を発信しやすい関係及び環境に配慮している。また、それらの内容については朝礼や全体会議、運営推進会議を利用して協議を行っている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々のご様子や参加した活動などを毎月文章にて報告し、金銭管理については現金出納帳と領収書を利用料の請求時に一緒に郵送している。また、ご面会に来られた際には、積極的にごあいさつし、情報の提供を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議やご面会の時などで常に問いかけ、ご意見や不満・要望が発生した場合はその都度対応し、苦情相談窓口や第三者機関への連絡先等も告知している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別での相談や全体会議・朝礼などで職員の意見や要望を聞いたり、介護の現場へ訪れて現状を確認し、働きやすい環境作りに努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況を踏まえてシフトを組んでおり、個別的な対応や行事などの活動を行う際にも、職員と話し合い柔軟に対応している。</p>		<p>個別ケアの充実を図る為、平成21年9月より各フロア固定の職員配置を実施予定。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>全ての職員が各ユニットの利用者の状態や状況を把握できるように固定化を図ってはいなかったが、個別ケアを充実させる為に固定配置を実施予定。</p>		<p>スムーズに新体制へ移行できるよう、準備を進めている。また、弊害が生じた場合は柔軟に対応する。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>資格や経験だけに囚われず、人間性や意気込みなどにも重点をおき、面接・採用を行っている。また、個々の勤務形態に十分配慮した勤務体制を確保している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々の業務の中で、人権を尊重するケアの実践に向けて啓発及び助言を行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>協力医療機関と合同で研修会を実施している。また、今年度より社内における「スキルアップ助成制度」を実施。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>開所時に他施設での事前学習や実習を実施した。関係医療機関と合同で勉強会を実施している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、日常的に介護の現場へ訪れ、職員個々と対話したり、アンケートによる職員の状況把握に努めている。また、協力医療機関との合同でレクリエーション等を企画し、実施している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員との対話や、アンケートなどで状況を把握し、勤務体制や職場環境の改善及び個々のスキルアップについて協力(助成制度を実施)を行っている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まずは、ご家族やケアマネージャー、医療機関などのソーシャルワーカーから情報収集し、希望がある場合は、入居するしないに関係なくご本人にお会いし、直接お話を聴いている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>多くは電話での対応になるが、できるだけ直接お会いし、時間が許すのであれば、施設見学も兼ねて当施設への来園もしくは、我々が来訪してお話を聴くよう努めている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容を十分に踏まえ、適切な支援サービスに関する助言や情報提供を行い、必要に応じて他の機関や社会資源の紹介を行っている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人やご家族の状況やご意見を伺った上で、体験入居からスタートし、ご本人・ご家族共に徐々に馴染んでいただいている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>これまでに獲得されてきた経験などを十分考慮し、日常生活やレクリエーションにそれらを取り入れ、支えあって共生できる支援を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族会、運営推進会議などを通し、様々な場面を共感・共有できるよう努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加や活動内容を報告し、できる限り交流を持っていただいて、より良い関係が保てるよう努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報保護に十分配慮し、古くからの友人・知人の来訪を積極的に促している。また、ご家族や友人のこと、これまでの生活についてなど日常の会話の中で思い出していただけるようにしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの性格などを把握し、レクの提案や生活環境の整備に努めている。また、利用者間の会話が潤滑に行えるよう、職員が橋渡しをしてよい関係を築く支援を行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られても面会や管理者に連絡し、様子を伺って継続的に関係を保っている。		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、その方の思いや希望を理解し、ケアプランの作成に努めている。また、意思疎通が困難な場合は、フェイスシートやご家族から情報収集し、反映させている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族からご本人のバックグラウンドに関する情報をお聞きし、フェースシートに記入しているが、日々の会話の中からも情報が得られるように努めている。また、お部屋に置く物などはできるだけ今日まで使用していたものを持参いただくよう促している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個々の生活リズムやADLの状態を把握し、過剰介護を避け自助能力が発揮できるケアの提供に努めている。また、僅かな変化に気付いたら、申し送りノートを用い、職員間での情報交換を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、担当職員が中心となり、ご本人・ご家族の意見や意向をお聞きし、主治医や関係機関からの助言などを鑑み、プランに反映している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月おきに評価を行い、状態の変化に合わせ、ご本人やご家族主治医等から希望や意見を聞きながら、見直しや検討を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録を作成し、日常生活の様子をはじめ、食事・排泄・入浴・バイタルなどを記録し、全職員が把握できるようにしている。また、希望があれば、ご家族にも閲覧できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者個人の状況に応じて、介護・福祉・医療における社会資源を活用し、ご家族への理解と協力を得て柔軟な支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の協力を得て、地域ボランティアの導入を行っている。また、警察や消防機関と連携し、地域の防犯や防災に協力すると共に利用者の緊急時にも対応を行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて、訪問による理髪や福祉用具利用の提案など行っている。また、週に一回、歯科衛生士による口腔ケアや口腔リハビリを行っている。今年度より訪問マッサージを導入。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加いただいたり、互いの訪問により、地域の情報や周辺の福祉施設の情報を交換している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関やかかりつけ医の選択に関しては、ご本人やご家族の希望に沿って行っているが、協力医療機関においては、往診など24時間オンコールの体制をとっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な精神科医の往診により、認知症だけでなく、全般的な精神的ケアの体制をとっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師1名が常勤し、関連施設である訪問看護ステーションとも連携を図り、利用者の健康維持・管理に努めている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>長期入院における利用者の身体的・精神的・経済的弊害を十分理解し、ご家族・医師・ソーシャルワーカー・他の機関と連携して早期退院の実現に努めている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご家族は、母体が病院であるが故に急変時や終末期は病院での対応を強く望まれている。従って、主治医を中心として、母体病院や他の医療機関と連携強化を行っている。また、重度化している現状を踏まえ、電動ベッドを導入した。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>24時間の往診体制など終末期に対する態勢は整えているが、いまだ事例はない。また、重度化にあたっては、早期の段階でご家族へ相談し、様々な側面からフォローできるように努めている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の事業所や福祉施設に移られても、その事業所との情報交換や面会許可などの同意を得て、リロケーションダメージを最小限にするよう努めている。</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護法に基づき、常に利用者の尊厳を最大限尊重した言葉かけや日常生活の支援を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に利用者の希望や意見を傾聴し、それらが伝えやすい関係の構築や言動または行動で察知できるよう日々の状態観察に努め、利用者個人の自己決定を尊重している。また、意思疎通が困難な方は、ご家族からの聞き取りなどで意向に沿うよう努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態を踏まえ、業務の内容や時間配分について日頃より見直しや検討を行い、個々のペースを乱さぬ支援に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	場面に応じた身だしなみに配慮し、おしゃれを楽しんでいたにしている。また、訪問理容を実施しているが、ご本人やご家族の希望で近隣の理髪店や美容院への外出も支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体病院の管理栄養士と連携を図り、メニューや調理過程などを検討し、調理から片付けまでの工程において、個々の残存機能に応じ、参加していただいている。また、その日の担当職員は、利用者と同じ食事を一緒にいただいている。		母体病院の栄養課と協議し、ソレイユ専属の管理栄養士を配置してもらった。今後、食事形態も含め、メニューの充実を図りたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師の指示がない限り、嗜好品の制限はしていない。但し、過剰な摂取が継続するようであれば、医師やご家族へ相談している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、不快さを軽減できるよう失禁や不潔行為防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	開始する時間帯や入浴時間はご本人の希望に合わせて提供している。また、個々の身体状況に合わせて福祉用具を利用したり、安全確保のため必ず職員が一人見守りを行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間に十分な睡眠が摂れるように日中はできるだけ活動への参加を促しているが、その日や個々の状態によっては休息を促している。また、医師との調整の上、睡眠薬剤でのコントロールも行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々における得意なことや残存機能を把握し、洗濯物たたみや裁縫、植物の水やりなどを行っていただいている。また、日替わりでレクリエーションを企画し、提供している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望で少額ではあるが、所持していただき、ご家族や職員と一緒に買い物へ行き、お金を支払っていただいている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候、ご本人の希望などを聞き、日替わりのレクリエーションを変更して行っている。また、庭や屋上を利用し、茶話会や外気浴も行っている。帰宅願望のある方は、ご家族の承諾を得て自宅への外出に同行している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節や希望に応じた外出を月に1度企画し、実施している。また、個別の外出についてもケース担当職員が計画し、実施している。		新型インフルエンザの影響で、混雑するところへの外出は控えているが、その分、近所への外出を増やしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、ご家族や友人と電話ができるよう支援している。また、手紙や用件の代筆や代弁も行っている。また、ご入居者の状態によっては、携帯電話を所持していただいている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定しておらず、いつでも面会できるようにしている。場所はご本人や来訪者の希望もしくは、他の利用者へ配慮し、自室やリビングをご利用いただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び隔離などは、一切行っておらず、それらを必要としないケアが実施できるよう協議や検討を全体会議などで行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関(自動ドア)に鍵は掛けていないが、すぐ横を自動車の往来が多い道路があるため、門扉には鍵を掛けている。しかし、鍵は刺したままにしており、ご家族や来訪者は容易に入ることができる。		自室の窓や浴室の窓から外へ出ようとするため、一時撤去していた窓の鍵を再び設置しているので、対応を検討中。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録の記入などはリビングで行い、常に見守りを行いながら所在確認し、作業を遂行している。夜間は最低でも1時間毎の巡回を行い、安産確認と利用者の様子観察を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、刃物や薬を管理し、利用者が使用もしくは服用する際には手渡しを行い、見守りしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリ・ハットを用い、職員が共有できるようにしている。また、全体会議ではその月に起きた事故やヒヤリ・ハット内容の検証を行い、再発防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、その手順に沿って対応している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルに従い、避難誘導などの訓練を行っている。また、近隣の病院などの協力を得て、避難場所を確保している。		7月に大雨の被害を受けたため、水害に対するマニュアル作成に向け、現在検討中である。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、利用者の状況をご家族へ報告し、起こり得るリスクについても説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行い、特に入浴時や排泄介助・おむつチェックのときには身体の観察を行っている。また、異常や変化があった場合は、主治医や協力病院へ連絡し、往診または受診を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者お一人お一人が服用及び使用している薬の用法・用量を個別にファイリングし、各職員がいつでも確認できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便ができるよう、水分補給や食物繊維を多く含んだものを使用した食事を心がけている。また、3日以上排便がない場合は、緩下剤を使用している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、洗面所にて歯磨きや義歯の洗浄を行い、必要に応じて食後や夜間に義歯の保管を行っている。また、週に一回歯科の往診を受け、口腔ケアについての指導や助言をいただいている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人に合った食事の形態や管理栄養士によるカロリーバランスを考慮した食事を提供している。また、食事や水分の摂取量を毎食チェックし、各職員が把握できるようにしている。		母体病院の栄養課と協議し、ソレイユ専属の管理栄養士を配置してもらった。今後、食事形態も含め、メニューの充実を図りたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルを作成し、実施している。インフルエンザについては全利用者・職員共に予防接種を実施し、洗面所などに手洗いうがいを啓蒙するポスターを貼っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理については、常に新鮮な食材を使用し、週一回の在庫チェックを行っている。また、調理器具などの衛生管理については、薬剤による消毒を定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には絵画や花などを飾り、落ち着いた雰囲気でお出迎えている。また、定期的に建物周囲の草取りや掃除を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファを設置し、くつろげる空間としている。また、壁には絵画や季節ごとに作成した作品などを飾り、カーテンなど内・外観共に一工夫したものを使用している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、テーブルや椅子を配置し交流しやすい空間づくりをしている。また、利用者のご希望や状態に合わせ、テーブルなどの位置を変え、模様替えも行っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類は、できるだけ入居前から使用している馴染んだものの持ち込みをご家族へ依頼し、各々が自由に使用していただいている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自動換気装置により、24時間循環型施設となっている。また、おむつ交換のあとなどは、窓を開け、換気に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で廊下やトイレ、浴室・脱衣室に手摺りを設置したり、必要な方には、ベットの角などに緩衝材を張り付けて安全を確保している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室やトイレが認識できるような表札やトイレまで誘導するプレートも設置し、確認できるようにしている。また、失禁などで汚染した衣類を自分で洗濯できるよう個々に対応している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	街の中に施設があるため、庭や館内にできるだけ花や観葉植物を置き、庭や屋上では、おやつやお茶を楽しんでいただいている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体が精神科と内科を擁した病院である為、医療的な処置や長期の入院が必要な場合でも迅速に対応できる。

地域のボランティアや学生の体験学習及び実習などを積極的に受け入れている。

臨床心理士による回想法を実施している。